

## 岡山県社会教育委員の会議 議事要旨

平成24年度第2回社会教育委員の会議全体会 (H25. 3. 22)

### 「平成24年度主要事業の成果及び平成25年度主要事業当初予算」の御意見

- ・親育ち応援学習プログラムを県PTA連合でも主体的に計画に入れて普及してほしい。また、生涯学習課も各市町村や各郡市、単位PTAにも呼びかけをして幅広く普及してほしい。
- ・PTA活動の目的の一つに、保護者を育てていくことがある。親育ち応援学習プログラムを今後の県PTA連合会の活動の中で紹介していきたい。
- ・家庭教育においては、関心のない保護者、PTAなど既存のネットワークに参加しない保護者をどう巻き込んでいくかが課題だ。ここをフォローしてほしい。さらに父親への働きかけが重要である。一人で悩む母親の背後には、関心の薄い、理解の少ない父親がいると思われる。男性が参画できるような方策が重要だ。
- ・企業への出前講座などを通して、仕事の忙しい合間の1時間でも父親が参加ができるモデルをつくってほしい。普段忙しい父親が、子育てのことを考える機会を増やすことが重要だ。

### 「平成25年度社会教育団体への助成金」の御意見

意見なし、了承

### 「専門部会調査研究について」の御意見

#### ■研究課題

「子どもが安心して学び成長できる環境づくり」

#### ■研究の方向性

- ・本県における子どもや学校が抱える様々な課題解決に向け「子どもが安心して学び成長できる環境づくり」をキーワードとして、社会教育サイドからの取組について調査研究を行う。
  - ・切れ目のない教育支援体制を構築することが課題解決につながることから、学校支援、放課後等支援、家庭教育支援の三つが各地域で取り組まれるよう、先行事例を検証し、立ち上げ期・充実期・拡充期、それぞれにおけるポイントを示すなど、充実・拡充のプロセスを見える化する。
- ・コーディネーターの役割・発掘・育成は公民館が担う必要がある。公民館活動に参加している地域住民を学校とうまく連携させていくことが大切だ。
  - ・学校支援地域本部の取組をしている地域においては、公民館が積極的に関わる必要がある。学校と公民館が連携していくことが重要だ。
  - ・暴力行為、不登校、学力低下の問題はやはり教師が中心となって解決すべきである。児童生徒の関心、意欲、態度は教師の毎日の課題であるし、規範意識も教師が指導すべきものである。また、課題を解決する上で、体験学習を教育現場に積極的に取り入れることが重要だ。体験活動についても提言することが必要である。
  - ・今の時代、学校の先生だけで子どもが指導ができない状況になっている。人の気持ちが分かる感受性、思いやり、学習に対する興味、意欲、忍耐力など様々な人間性を養って基礎をつくるのは家庭だと思う。学校への教育支援とともに、家庭への教育支援が必要だ。

### その他（社会教育推進等）の御意見

- ・悩みを抱える保護者が相談できにくい環境にある。そこへの手当が必要だ。また、保護者の力だけでは子どもが育ちにくい。地域全体で子どもを育てることが重要だ。
- ・就労、結婚など青年が抱える課題も大きい。青年同士のつながり合いとともに、世代間のつながりが今後ますます必要になる。
- ・社会教育委員の会議において、各課室の定量的、定性的な目標を示してほしい。
- ・団体への補助金の規定について、今後議論を深めていきたい。